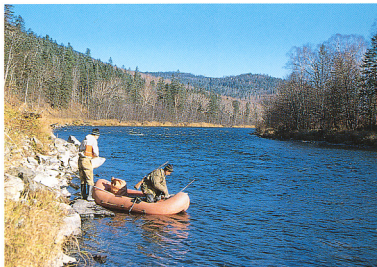


## シホテアリンの川

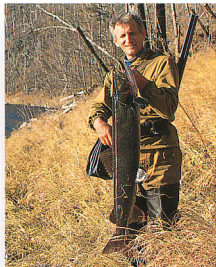
ロシア極東の日本海沿岸部はシホテアリン山脈と呼ばれる。新第三紀以降あまり大きな変動を受けていない地域だから、日本の山脈のイメージからは程遠く、低平な山の間を、川もゆったりと流れる。山脈は非対称で分水嶺が日本海寄りを走り、川の多くは西方のウスリー川やその下流のアムール川へと流れて行く。秋の風景を上流から下流へと紹介する。(地質ニュース編集委員会 佐藤興平)



1.シホテアリンの川には河原が無く、岸辺までびっしりとタイガにおおわれる。ポストーク付近。



2.道路の無い地域では、ゴムボートが地質調査の強力な武器になる。アヌイ川、アムール川の河口から500 km以上遡ったこの辺りでも、標高はまだ250 m程度。



3.アヌイ川に棲むサケ科のタイメン(イトウ)、一般の捕獲は禁止。



4.ハバロフスク市郊外アムール河岸の湿地帯を流れる蛇行河川、アエロフロート機より。